

学校教育目標	すすんでまなぶ子 たすけあう子 げんきな子
目指す学校像	○児童にとって学びがいのある学校 ○保護者にとって頼りがいのある学校 ○教職員にとって働きがいのある学校 ○地域にとって誇りのもてる学校
重点目標	1 人との関わりを大切にする児童の育成を目指した授業実践 2 児童の心理的安全性を確保する生徒指導・教育相談の充実 3 学校地域が一体となって取り組む教育活動の実現 4 教育活動全体の前提となる安全・安心な学校づくりの更なる充実 5 質的な働き方改革の視点に立った職場づくりと教職員の能力の伸長のための指導・育成

※重点目標は5つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学校自己評価							学校運営協議会による評価	
年度目標				年度評価			実施日 令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	(現状) ○全国学力・学習状況調査やさいたま市の学習状況調査では、国語、算数ともに全国、市平均を大きく上回っており、良好な結果である。 ○全国学テ、市学調における無解答率が低い。(諦めずに取り組む力が高い) ○調べたことや自分の考えをまとめたり、分かりやすく表現したりできる児童が多い。 (課題) ○全国学力・学習状況調査の結果分析から、学習指導要領の内容において全ての項目で全国平均を上回っており、個人としての学力は高い。人との関わりの中で学びをお互いに高め合う意識を醸成できればさらに学力向上に寄与できると感じる。	・ICTの効果的活用も含めた「アクティブ・ラーニング」型授業の実践  ・研究主題に迫るための授業改善、及び児童の意識改革	①ICTの協働学習ツールの効果的活用を軸とし、これまで積み上げてきた指導方法(アナログ)とデジタルを効果的に融合させた授業を実践し、自分の考えを表現できるようにする。 ②小グループでの学習の場を適宜取り入れながら、授業展開を目指す。 ①本校の研究主題「一人で、みんなで考えて、進んで学び、わかる!できる!楽しい授業」の達成に向け、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に繋げるため、授業実践及び改善を計画的に行う。	①市が示す学びの指標に係る児童向けアンケートの項目、「主体的な学び」及び「探求的な学び」において、それぞれ8割以上の肯定的回答になったか。  ①研究主題の達成度合を図るための児童向けアンケートで肯定的回答を最終的に9割以上に上がったか。				
2	(現状) ○児童の学校評価アンケートでは、「いじめや悩みなどの相談に応じている」の項目の肯定的評価は97.0%だった。 ○SCやSSWの積極的な働きかけ及び保護者との面談も相まって、児童と同様の質問内容の保護者アンケートにおいても91.9%の肯定的回答を得られている。 (課題) ○学校に登校できない児童や教室に入れずにさわか学習室に登校する児童が数名おり、不安解消に向けた取組が不可欠である。 ○教職員の入れ替わりが多く、児童や保護者と信頼関係を改めて構築することが必須である、	・児童の気持ちを大切にしている生徒指導・教育相談の充実  ・児童の気持ちを大切にすることの周りの大人(教職員と保護者)の共通理解、共通行動	①心と生活のアンケート結果を踏まえ、必要に応じ、面談を実施する。 ②おはようメーターを活用した児童の心理状況の変化に着目し、教職員における共通理解及び、適切な声掛けや指導について研修し、実践に繋げる。 ①いじめや悩み等に迅速に対応するため、生徒指導、教育相談、特別支援に関する会議の確実な開催、及び適切な対応を実施する。 ②保護者向けの教育相談案内を定期で広報し、共通行動に繋げる。	①児童向け学校評価アンケートの項目「いじめや悩みなどの相談に応じている」で肯定的回答が9割以上になったか。 ②児童が安心して生活ができることを示すアンケートにおいて昨年度同様高い数値の肯定的回答があったか。 ①会議の定期的な開催のもと、SC、SSW等と連携を図って、児童の支援、相談に応じることができたか。 ②保護者アンケート「いじめや悩みなどの相談に応じている」の項目の肯定的評価が昨年度を上回ったか。				
3	(現状) ○ここ2年は、学校運営協議会を年3回開催し、学校の現状と課題、目指す児童の姿(特にあいさつ)について、熟議を重ねた。 (課題) ○目指す児童の姿を積極的に情報発信し、家庭、地域に広め、共に連携して児童を育成するという基盤づくりが必要である。また、SSN等地域の教育力を活かした活動を取り入れ、児童が本物に触れる機会を多くすることも課題となる。	・学校運営協議会やSSN等が連動し、学校と地域の連携からなる取組の充実  ・学校の情報発信と学校行事の充実	①人材バンク制度を生かし、授業にゲストティーチャーとして招聘できる専門性の高い人材を確保する。 ②SSN協議会で地域の方々と共に協働できる活動プランについて話し合いを行う。 ①学校運営協議会やSSNに関する情報を学校だよりや学校HPを通じて発信するなど、広報活動を行う。	①人材バンク登録者を確保し、ゲストティーチャーとして授業に招聘し、児童の探求的な学びに寄与する取組とすることができたか。 ②SSN協議会を開催し、活動プランの策定及び実践をすることができたか。 ①情報発信に関する学校評価(保護者、地域)の肯定的評価が9割以上となったか。				
4	(現状) ○学校評価アンケートの「きれいな環境づくりに心がけている」「安全・安心に気を付けている」のいずれ項目においても、児童、保護者、地域、教職員ともに9割以上の肯定的回答が得られた。 (課題) ○遊具の劣化、空き教室の整備など、学校のハード面において早急に対応すべき課題がある。 ○経年劣化している施設の効果的修繕に向け、市教委との調整が必要である。	・安全・安心な学校生活を保障するための安全点検の実施  ・施設の老朽化に係る対応について、市教委等との連携	①毎月の安全点検を確実に実施し、結果について細かく確認し、事故を未然に防ぐ。 ②個人情報やその他教職員に係る事故防止に繋がる研修を実施し、学校は安全であるという基盤を再構築する。 ②施設の老朽化やその整備については、教育委員会との連携を図るほか、PTAボランティアや人材バンク等に呼びかけ、協力を仰ぐ。	①安全点検の結果に基づく協議を学期1回実施し、児童の事故防止(首から上の怪我防止)につなげられたか。 ②教職員事故防止研修を実施し、教職員事故を防ぐとともに学校は安心できる場所であることを立証できたか。 ①施設の老朽化またその整備について3か所以上実施することができたか。				
5	(現状) ○全教職員が1人1授業以上の公開を行い、互いに指導技術を高めてきた。 ○教職員は、「わ(輪・話・和)」を大切に、「すべては子どもたちのために」を合言葉に互いに協力しながら勤務に当たっている。 (課題) ○教職員の平均年齢が下がったこともあり、今一度経験豊かな教員がこれからの担う教員に指導技術を伝えていく必要がある。	・1人1授業の授業公開、及び授業改善  ・質的な働き方改革に基づく風通しの良い職場環境づくりの実践	①全教職員の教科指導力を向上させるために授業公開を行い、その後研究協議をもつて、指導改善につなげる。 ②管理職の日々の教室訪問を通して、教職員の指導力向上に繋がる指導助言を適宜与える。 ①引き続き、教職員向け重点ワードを「わ(輪・話・和)」とし、意識付けを図る。 ②管理職から率先して教職員とのコミュニケーションを図り、職員室の雰囲気良好なものとする。	①全ての教員がICTを活用した授業公開等を年1回以上行い、公開することができたか。 ②市が示す学びの指標に係る児童向けアンケートの項目、「基礎的スキル」において、8割以上の肯定的回答になったか。 ①教職員向けアンケートの職場環境に係る項目において肯定的回答を8割以上にすることができたか。				